

# 外来雑草(がいらいざっそう)

近年、牧草地や飼料畑では、今まで無かったような草が、雑草化することが問題となっています。日本にもともと無く、外国から入りこんだと考えられる雑草のことを外来雑草、または外来帰化雑草といいます。

外来雑草は、外国から輸入されるエサの中に種子として紛れ込んで日本に入ってきます。その種子の中には家畜が食べても消化しにくいものがあり、家畜の体の中を通り抜け糞中に排出されます。その糞、堆肥を畑に散布することにより外来雑草は、進入してきます。いったん進入した個体が花をさかせ結実し、その種子を畑に落下させることにより爆発的に増殖していきます。

## 牧草・飼料畑で問題となっている外来雑草

これらの雑草は牧草やトウモロコシの収量を著しく減少させるだけでなく、その品質も低下させてしまう強害雑草です

### イチビ

トウモロコシ畑で問題となる。サイレージに混入すると不良発酵の原因となり嗜好性が低下する。



### ギシギシ

牧草地で最も一般的な雑草。一株から3～4万個の種子を生産する。牛の嗜好性も悪い。



### ヒルガオ類

トウモロコシ畑で問題となる。つるがトウモロコシにからまり全く収穫できなくなることもある。



### ウルナスビ

牧草地で問題となる。有害物質を含み大量に牛に給与すると中毒を起こす。



家畜糞中に含まれる雑草の種子は、堆肥化の過程による発酵熱により死滅します。そのため雑草の進入を防ぐためには、適切な堆肥化処理が最も大切です。また一度進入しても、結実する前に防除する早めの対策が必要です。